

新京野菜「京の黄真珠」で農福連携

農業体験農園が福祉施設の栽培を応援

京都農業体験農園・園主会 × ハピネス京都共同作業所

新京野菜「京の黄真珠」は、香辛料の原料野菜として京都市が大学などと開発した小粒で黄色い丸形の唐辛子。京都市内限定で栽培・収穫した後、障がい者福祉施設で果実を選別し、香辛料メーカーが製品化する「農福連携」の取り組みが進んでいる。

京都農業体験農園・園主会では、昨年、会員6人が1500株を栽培。収穫後に色・形・サイズを選別作業を受託した福祉施設の一つ、NPO法人ハピネス京都共同作業所（高山基則理事長）が、今年から栽培にも挑戦している。

苗の定植や作業を福祉施設に委託することにより、コロナ禍で仕事が減少した施設利用者の就労支援につながる。

高山理事長は、「農業が好きな施設利用者は栽培から取り組む方がやりがいを感ぜられるし、他のメンバーも一緒に参加できる」と期待する。園主会の小山修司副会長



ハピネス京都共同作業所のスタッフに定植を指導する園主会の小山修司さん（左から2人目）

が規格にあう果実の選別作業を福祉施設に委託することにより、コロナ禍で仕事が減少した施設利用者の就労支援につながる。高山理事長は、「農業が好きな施設利用者は栽培から取り組む方がやりがいを感ぜられるし、他のメンバーも一緒に参加できる」と期待する。園主会の小山修司副会長

4戸で花菜を1.2畝栽培

笠置町・切山地区

笠置町切山地区では、町の振興作物「花菜」の生産者グループ（4戸）が1.2畝を栽培し、元気に産地を支えている。約25年前に中辻八重乃さんと増地セツさんが切山地区で花菜の栽培を開始した。その後、近所の森保男さんや寺阪勇さん・良子さん夫妻が参加し、セツさんの後継者（増地和夫さん・伊津子さん夫妻）も栽培に加わった。

山間部のため、鹿の被害を防ぐため、防護柵を設置して厳重に対策を施したほか、町の猟友会も



左から中辻八重乃さん、寺阪勇さん・良子さん夫妻、森保男さん、増地和夫さん・伊津子さん夫妻

駆除に力を発揮した。花菜を収穫するのは、12月から4月まで。早朝から中腰で行う収穫作業

初年度 農業者向け クラウドファンディングセミナー

来月26・27日開催

京都府農業会議は、新商品開発など事業化に必要な資金を多数の賛同者から調達するクラウドファンディングのセミナーを開催する。

府内の農業者向けに、来月26・27日（13時30分～16時30分）、南北の会

場（26日）府田辺総合庁舎、27日）綾部総合庁舎）で参加希望者（各20人）を募集している。参加は無料だが、事前申し込みが必要。詳しくは、農業会議（メール hbc-uke@stake.gr.jp、fax 075-417-6807）まで。

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-441-3660

ナス9トンを1人で収穫

5年前に井手町に新規就農した前田洋輔さん（37）は、農地を借りて農業経営を開始した。農地も農機具もないゼロからスタートで苦労したが、先輩農家のアドバイスをもとに「ナスを経営の柱にする」と決め、経営改善に取り組んでいる。

畑ごとに栽培時期を変えて出荷時期を調整するなど収穫量を増やすための工夫を重ねた結果、1年目のナスの出荷は3倍、2年目は4倍、3年目は9トンを増やした。

ホウレンソウ、サツマイモ、花菜も栽培する前田さん。「将来は加工にも力を入れて、経営の幅を広げたい」と熱く語った。（井手町農業委員会）



現場の想い

▼府北部の集落を訪問しながら思うことがある。▼補助金政策は、府内は、府内の農業を支援する。▼補助金政策は、府内は、府内の農業を支援する。▼補助金政策は、府内は、府内の農業を支援する。

女性委員が “つないで発信”

宇治市 井内かおりさん

サラリーマン家庭で育った井内かおりさん、結婚して専業主婦になったが、夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。



サラリーマン家庭で育った井内かおりさん、結婚して専業主婦になったが、夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。夫の転勤で専業主婦生活が難しくなった。